

2023年7月号

故郷の人物を知ろう

たかおか 温故知新

高岡古城公園創設者／服部嘉十郎(1845～80)

嘉十郎は高岡を代表する町人、天野屋の13代目で、幼い頃より学問・文芸に秀で、温厚な人柄でした。

服部家(天野屋)初代は前田利家の越前府中(福井県越前市)時代に召し抱えられます。利長に従って、守山城を経て富山城に移り、その際に町人となって天野屋と名乗ります。2代目は、1609年の高岡開町の際に御馬出町に109m四方の宅地を拝領。翌年、町役人中最高位の町宿老となります。1711年、家は藩主の御宿(御本陣)に指定されました。

嘉十郎は1868年家督を相続して町役人に加わり、貧民救済や地租改正に奔走しました。また、同年高岡初の公立学校・高岡学館の役員となり、1876年には当時北陸随一と称された高岡育英小学校を創

設するなど教育にも尽力しました。

最大の功績は、1875年の高岡古城公園の創設です。1870年、金沢藩は「古城」(高岡城跡)の払い下げ開墾を命じ、2年後七尾県が入札を行いました。このとき26歳という若さで大区長(現



服部嘉十郎先生頌徳碑 在の市長に相当)を務めていた嘉十郎は、「公園」にすべく有志と落札者を説得して回り、翌年請願書を提出。1875年7月4日に正式に公園に指定されました。

高岡の人々のため、町役員として活躍した嘉十郎でしたが、その裏で父の介護を11年間務め、その間依願退職と復職を繰り返します。自身も31歳頃より結核となり、父の死後2ヶ月後に34歳で亡くなりました。(仁ヶ竹主幹)

問合先 博物館 ☎20-1572